

「惟口起羞、惟甲冑起戎。」「傳」甲、鎧、冑、兜鍪也。「疏」經傳之無鎧與兜鍪、蓋秦・漢已來始有此名、傳以今曉古也。古之甲冑皆用犀兕、未有用鐵者、而鍪鎧之字、皆從金、蓋後世始用鐵耳」の用例が見える。ここでは川口久雄氏が、岩波古典文学大系本の頭注で触れられているように、『禮記』「儒行」の「儒有忠信以爲甲冑、禮義以爲干櫓。」「注」甲、鎧、冑、兜鍪也」の一文を踏まえた語と解した。

190 ○戈鋌…「戈」は「ほこ。片方に枝の出たほこ」の意で、「鋌」は「①てほこ。小さいほこ。鉄の柄のある短いほこ。②さす。ほこで刺す」の意である。

『文選』班固の「東都賦」に「元戎竟野、戈鋌慧雲。」「注」善曰、說文曰、鋌、小矛也」の用例が、また杜牧の「分司東都寓居履道叨承州尹劉大夫恩知詩」に「戈鋌廻紫塞、干戚散形庭」の句が見える。『漢語大詞典』では、「戈與鋌。亦泛指兵器」と説明し、岑參「陪狄員外早秋登府西樓因呈院中諸公詩」の「旌節羅廣庭、戈鋌凜秋霜」の句を引く。

○痛 ……いたし。きびしい。激しい。「(心や体の)苦しみによるいたみ」を含む。(『漢語林』)

191 ○瓊瑣…①ちっげけなさま。②取るに足りない様子。小さいさま。

『文選』張衡の「東京賦」に「既瓊瑣焉。岐陽之蒐、又何足數。」「注」綜曰、瓊瑣、小也」の句が見える。

○黄茅…ちがやの一つ。きいろいちがや。

「茅」は「ちがや(イネ科の野草の名)。紙の原料にしたり屋根をふく材料となる。古くは「ちがやの葉で「ちまき」を包むのに用いられた。」と説明のある植物名で、「茅屋」として「かやぶきの家。質素な家のたとえ。」の意で使用される語。